日本工学アカデミーニュース

No. 2
1987.11.1.

The Engineering Academy of Japan News

1. 臨時総会・関西にて開催さる

昭和62年10月13日（火）
於・大阪中之島センタービル

1－1. 総　　会

総会会場

昭和62年度における臨時総会は，会則5－15)に基づき昭和62年10月13日(火) 大阪市北区中之島センタービル3階〝花の間〟において開催された。

総会は定刻 16:00，まず，小林日本工学アカデミー会長の「本日の出席正会員は43名，委任状を寄せられた会員285名，計328名で，会則5－16）に示される会員総数（425名）の10分の1以上の定数を示しておりますので，臨時総会は成立致しました。」との開会宣言があり，議長席に会長が着き（会則5－16)），議事が進められた。

議事は既に全会員に文書をもって提示されていた次の3件について審議された。

Ⅰ. 新会員の推薦について

Ⅱ. 会則の改正について

Ⅲ. 役員の選任について

第1番目の「新会員の推薦について」は，会員の地域，分野別の均衡，特にこの度は関西地域の会員を増強するなどの理由により，会員選考委員会および理事会の審議を経て53名の新会員の入会を提案し，異議なく了承された。

第2番目の議題「会則の改正について」については担当の平山理事より，会員推薦を総会の審議事項から，理事会の承認事項に変更すること，また，会務全般の担当として新たに専務理事を設置することについて会則改正の提案説明（別掲）があり，異議なく了承された。

第3番目の議題は同じく平山理事より，バイオ専門部会関係の理事として鈴木周一氏を，また，会務全般を担当する理事として武田行松氏をそれぞれ選任し，武田行松氏は前議題で改正された会則に従い専務理事に選任することが提案され，承認された。

以上臨時総会に提案された三つの議題はすべて総会において了承され実行に移されることになった。ここにおいて，議長より出席会員へ，臨時総会への協力に対し感謝の言葉があり，閉会宣言がなされた。引き続き，専務理事に選任された武田理事のあいさつがあった。

また，平山理事より事務局設置の経過および今後の工学アカデミーの行事予定の説明がなされた。（別項参照）

この後，特別講演(次ページ掲載)として，関西経済連合会会長宇野収氏によって「関西の将来構想」と題する講演が行われた。

懇親会は，特別講演の後，部屋を替え〝楓の間〟において，講師ならびに招待客を加え開催された。

伊藤理事の司会により，小林会長のあいさつ（別掲），熊谷大阪大学学長の地元としての歓迎のあいさつの後懇談に入り，和気あいあいのうちに交歓が行われ，時の経つのも忘れる程であった。

パーティ写真

1－2. 特別講演　　演題〝関西の将来構想〟

関西経済連合会会長
関西文化学術研究都市推進機構会長
宇野　收氏

「関西の将来構想」と題するスケールの大きい，世界の中の日本，日本の中の関西の立場で関西空港，学研都市計画をとり上げながら関西の活性化，日本の活性化を通じて世界の活性化へというVision に満ちたお話に出席者一同深い感銘と勇気の湧き上がるのを覚えた。講演要旨は下記のごとくである。全講演はいずれ昭和62年度の〝年次報告〟に掲載の予定である。

講演要旨

この20年間に日本は世界に大きな影響を与える国に成長しているのに，一般日本人にはその自覚が少ない。日本の突出によるギクシャクをへらすには具体的に海外の要望にこたえて門戸を開く，つまり日本の技術情報を海外ことにアジアに開放することであろう。

関西は日本経済の20％である。

1. 1000 余年におよぶ首都圏としての歴史を持つ関西を日本の文化首都圏としたい。
2. 京都は伝統文化を誇り，保守的ながら独創性に富み，神戸は開放的，大阪は企業精神旺盛等，関西は多様性に富む，連帯感の強い地域である。
3. 素材・造船・化学繊維等成熟度の高い産業を持ち円高で苦しんでいる。
4. 21世紀に向けて大型国家的プロジェクト等，計15兆円程度が進められている。

これらを関西活性化上生かして行きたい。

学研都市：本年10月に16省庁による関西学研都市に関する関係閣僚懇談会第１回が開かれ，京都・大阪・奈良３府県にまたがる国家プロジェクトは第一歩は踏み出している。この計画は民間主体である。自然科学のほかに人文・社会科学も含み，海外から多勢迎え入れ，情報も海外に出す等国際化する。産・学・官で人も出し合う等を採り入れた極めて特色あるプロジェクトで，関西文化首都圏の中核である。５兆円の費用をかけ完成は30年後と考え、筑波学国都市よりかなり大型である。

常になぜ学研都市をつくるのかを忘れることなく計画を進めている。

関西空港：日本で最初の24時間稼動可能な空港で68年３月滑走路１本でスタートし73年には２本としたい。

関西空港は日本の出入口，学研都市は世界への情報発信源となろう。

天然資源のない日本の生き残る道は加工貿易型でなく研究開発を進める頭脳を絞ることに期待する。基礎研究大いにやるべしである。

（文責，今井広報委員）

1－3. 懇　親　会

小林会長のあいさつの大要

過去には集中化の努力が多く分散をいけないとしてきたが，これからは，全部が分散となり，自分の永い間の主張のＣ＆Ｃが役立つような世界としたい。

戦争が今後本当になくなるなら国境といったものは不要で，国境の性質が変わって来るであろう。21世紀には国境はsoftなものになるようにしたい。

発展途上国は，通信は先進国のもので自分たちは電話機にさわることもできないと不満を感じている。このようなことを打ち破るために努力したい。自分の経験でも，電話機の会社に入って18年目にしてようやく電話を自分の家に付けられたが，今日では電話を知らぬ人はいない。

各国の人が誰でも自由に話し合えるような通信としたい。

戦争がなければ，通信は今後大いに進歩するであろう。

関西で臨時総会の開催ができたことを喜び，関係者にお礼を述べたい。

熊谷総長あいさつの概要

理想と理念をもって関西の各界は努力している。

宇野氏が今日の講演を引き受けて下さったことに感謝したい。今後も日本工学アカデミーが東京以外で行われることを望むし，お手伝いをしたい。

これをもって，お礼と歓迎の辞とする。

2. 理事会だより

4月創立総会以後10月まで，本会理事会は5月20日(水)，7月15日(水)，9月16日(水)と3回開催された。ここに第1回から第3回までの理事会の審議内容を取りまとめ報告する。

1. 会員の推薦について

新会員の入会承認を，総会の審議事項から理事会へ委譲するための会則改正を行うため，10月に決定されていた関西例会を臨時総会とすること。(第1回理事会)。会員推薦委員会の組織作りを急ぎ，会員の東京集中を避け，地域性を考慮して推薦することとし，関西地区の理事，主な会員の推薦により9月8日の会員推薦委員で審議し，その結果は9月16日の第3回理事会で承認され，現会則にのっとり臨時総会へ提出することにした。

また，同時に「日本工学アカデミー会員選考要領」を承認し，今後これによることとした。

2. 臨時総会について

前項に関連して，下記の臨時総会の開催計画を承認した(第2，3回理事会)。

日　時　昭和62年10月13日(火)　16:00～19:30
場　所　大阪市北区中之島6－2－27
　　中之島センタービル
総　会　16:00～16:30
　議　題　1. 新会員の推薦について
　　2. 会則の改正について
　　3. 役員の選任について
特別講演　「関西の将来構想」　16:30～17:30
　　関西経済連合会会長　宇野　収氏
懇親会　17:30～19:30

3. 各委員会および専門部会について

ア．国際委員会は第2回理事会で，政策委員会は第3回理事会で
イ．材料専門部会は第2回理事会で，情報専門部会は第3回理事会で

それぞれ構成および活動方針が承認され，設置を決定した。

なお，バイオ専門部会は鈴木周一氏を理事として臨時総会で選任した上，11月理事会で構成および方針が決められる予定。

4. 専務理事および事務局長について

かねてより人選が進められていた専務理事には，C＆C財団専務理事の武田行松氏の内諾を得たので，臨時総会で選任することを了承し，事務局長については，前電子情報通信学会事務局長傍島忠義氏に委嘱し，10月1日から就任することを了承した。(第2回理事会)

5. 事務局

かねてより懸案となっていた，事務局の部屋については，日本電気株式会社から現在同社が借用使用している一部を当面，提供してもらえる可能性が出て来たので，この線で進め，日本工学会と同居するという好意的提案は，広さの問題もあるので白紙に戻すことにした。なお，事務局は10月1日より別掲の場所で正式に独立発足した。

6. 日本工学会との打ち合せ

日本工学会とは，事業その他について関連性もあるので，今後，正式に定例打ち合せ会を持つこととした。

7. 講演会，シンポジウム，懇親会等計画について

これらについて，提案・報告等が行われ，それぞれ実施を了承した。

8. 懇話会設置について

会員有志からの提案により，自由に討論できるサロン的な集合を計画することにした。(第3回理事会別項参照)

9. アメリカ科学アカデミー会長との夕食会

来日中のアメリカ科学アカデミー会長 Frank Press氏他2名と，当会役員との夕食会が，10月20日(火)目黒の泉華荘にて催され，友好度を深めた。なお，当会からの出席者は猪瀬理事外5理事であった。

3. 委員会・専門部会報告

3－1 政策委員会の発足

委員長　向坊　隆

昭和62年度事業計画の一つとして，「政府政策との情報交流から始め，動向把握，諸活動起案のため政策委員会を置き活動する」こととなっており，去る9月16日の理事会において政策委員会の委員構成ならびに事業計画の大綱が承認された。

委員構成

委員長　向坊　隆，　幹　事　石原智男

委　員　伊藤富雄，乾　崇夫，今泉常正，内田盛也，髙村仁一，米田幸夫

活動方針の大綱

主として政府関係の諸政策に日本工学アカデミーの意向を実効のあがるよう反映させるため，日本学術会議，科学技術会議，各省庁，民間団体等の科学・技術・産業関連白書類の入手と集約を図り，会員に情報提供を行うと共に，これらに対する会員からの意見を聴取する。

3－2 国際委員会の方針と活動状況

委員長　猪　瀬　博

この委員会は日本工学アカデミーの国際面での諸活動，特に諸外国の工学アカデミーとの連繋，工学にかかわる国際的諸問題の調査研究などを取扱う方針である。前者については，日本工学アカデミー発足直前にワシントンで開催された第6回世界工学アカデミー会議に猪瀬が出席して講演を行うと共に，連絡調整を行ったが，11月10日にはスウェーデン工学アカデミーとの合同会議を行うと共に，Gunnar Brodin 教授（ストックホルム王立工科大学学長）および猪瀬が講演を行うことになっている。後者に関しては，日本学術振興会の「先端科学技術と国際環境」第149委員会と密接に連繋しつつ，シンメトリカル・アクセス，発展途上国と先端科学技術，先端ロボット技術の三つの課題について作業グループを設けて調査研究を行うと共に，米国科学アカデミーおよび工学アカデミーへの対応を行うこととなっている。

3－3 材料専門部会の活動方針

部会長　斎　藤　進　六

現在は第三次産業革命の黎明期にあるといわれており，科学技術の新思想の開花と共に，全地球的な産業社会秩序の再編成が急速に進展している。この中で，物質・材料の科学と工学は大きな役割を果たすと期待されている。

科学技術会議諮問第14号「物質・材料科学技術に関する研究開発基本計画について」に対する答申（昭和62年8月）の中でも，そのことが明確に示されている。一方日米摩擦は21世紀へと変貌する産業社会構築へ向けての科学技術摩擦であり，米国は，全米研究会議の中に，ナショナル・マテリアルス・アドバイザリー・ボード（NMAB）を設置して，全世界の物質・材料の科学と工学の進展を把握する活動と，連邦政府への建議を活発に行っている。我々の部会も，米国アカデミーのNMABのような機関へと成長することを期待している。そのために，内外の物質・材料の学術機関および政策機関などとの話合によって，諸事業を企画推進して行くこととなろう。会員各位の御協力と御参画をお願いする次第である。

3－4　情報専門部会報告

部会長　瀧　保夫

昭和62年8月26日に滝部会長（理科大），平山教授（早大），猪瀬所長（学術情報センタ），城水常務（ＮＴＴ），戸田所長（ＮＴＴ）が部会設立準備打合せを行った。

部会の活動方針（案）として，「当部会は特定の立場にとらわれず広い立場から情報分野における今後の技術開発の方向，工学の発展を助成する施策について提言，建議を行う」こととし，当面の活動として63年度上期に公開講演会または討論会の開催を計画することとした。

部会活動は学術会議電子・通信工学研連および情報工学研連と緊密な連携の下に活動することとし，この観点から部会委員および部会専門委員を選出し，9月16日の理事会に提案承認された。

委員の任命を待って，本年中に専門委員会及び部会を開催し63年度活動方針および計画を策定する。

3－5バイオ専門部会

部会長　福井三郎

1. 部会の方針

国内外のバイオテクノロジーに関する情報および動向を把握し，我が国の技術の進展および将来の政策に資する。

2. 部会活動

(1) アメリカ，ヨーロッパにおけるバイオテクノロジー関連国際会議の動向および評価

(2) バイオデータベース・エキスパートシステムの現状報告

(3) プロテインエンジニアリングに関する研究開発の展開

(4) バイオテクノロジー関連国際会議の開催についてアメリカ工学財団との協力の検討

これらの事業について部会幹事会を構成し，企画検討する。

4. 今後の行事・講演会のお知らせ

(1) 11月3日（火）　於 スウェーデン大使館

スウェーデン理工学アカデミーより本会へ記念品が贈られる。記念品は来日中のスウェーデン国王より小林会長へ手渡される予定，本会出席者，小林会長外6名。

(2) 11月10日（火）　於 東大

スウェーデン理工学アカデミーとの共催講演会等

ア．両アカデミー役員懇談会　14:00～15:00

イ．講演会　15:00～17:00

場所：東京大学工学部11号館講堂

（正門入って左）

演題：講師

(1) Evaluation of Engineering Education and its Influence on Industrial Development

Prof. Gunnar Brodin

(2) 科学技術振興に関する私見

猪瀬　博氏

ウ．懇親会　17:00より　学士会館分室

(3) 11月18日（水）　於 機械振興会館

理事会　18:00より

(4) 12月9日（水）　於 機械振興会館　5Ｓ－2室

懇話会　18:00より

第3回理事会で決められた自由に議論できるサロン形式の会合を計画しました。但し，初めてですので，話題提供者として，最近英国の工学アカデミーを訪問された中川副会長にお願いしてあります。

→7頁へ続く

→6頁より

(5)　昭和63年1月20日（水）

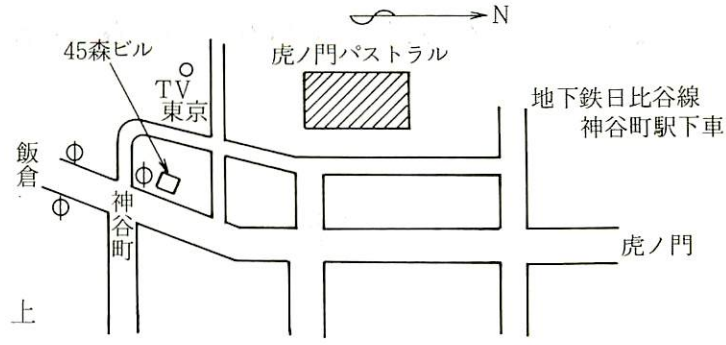
「理事会・新年名刺交歓会」

於：虎ノ門パストラル

（東京農林年金会館）

理事会　13:00－14:00

交歓会　14:00－16:00　　以　上



5.　会則改正（案）　（臨時総会へ提出）

1.　改正の主旨

1）従来総会承認事項であった正会員の入会を理事会承認事項とする。

2）新たに専務理事を置く

2.　改正点＿＿＿＿＿の箇所

3.　会員および会費

6）（会　員）

本会の会員は正会員および客員会員とする。

i）正会員は次の事項の少くとも一つに該当する日本国籍を有する候補者の中から，選考委員会の審査を経て理事会で選ばれる。（以下省略）

推薦　　総　会

4.　役員および顧問

8）（役　員）

本会には，次の役員を置く

1）理　　事　　30名以内

内　会長1名，副会長若干名および専務理事　1名

2）監　　事

9）（役員の選任）

省　　略

10）（会長・副会長および専務理事の選任）

会長・副会長および専務理事は，理事の中から総会において選任する。

11）（会　　長）

省　　略

12）（理　　事）

省　　略

13）（専務理事）

専務理事は，会長および副会長を補佐し，会務全般の運営をつかさどるとともに，理事会から委任された事項の会務を処理する。

14）（役員の任期）

13）　省　　略

以　下　省　略

広報委員会からのお知らせ

次号ニュースから〝会員の声〟欄の新設について企画しております。

編集後記

創刊号を出して早や３ケ月余がたちました。

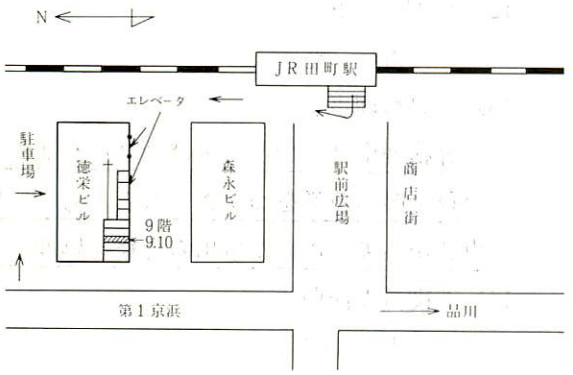
２号は大阪臨時総会・各部会委員会の活動を中心にしました。

専務理事にＣ＆Ｃ財団専務理事の武田行松氏，事務局長に前電子通信学会事務局長の大ベテラン傍島忠義氏を迎え，事務所も日本電気本社の内にきまり，工学アカデミーの活動がはじまりました。

ニュースが会員相互のきずなアカデミーへの理解，支援を頂く手だてと役立つことを重ねて願っています。

ニュースも忙しくなることを期待しています。

（広報担当　乾・今井）



事務局について

事務局は日本電気株式会社の御好意により10月１日より下記の場所に移転開設いたしました。交通の便も良く，部屋も若干のゆとりがありますので気軽にお立ち寄り下さい。

No. 2　　1987年11月１日

日本工学アカデミー　広報委員会

事務所：〒104　東京都港区芝５－33－７
（徳栄ビル　９Ｆ）

日本電気株式会社内

☎　(03) 798－6196
FAX (03) 798－6197